

うちどく おすすめ絵本リスト

2023.4～2024.2

中学生版

この一年で図書館司書が毎月紹介した
絵本をリストにまとめました。



「うちどく(家読)」とは、家族で同じ本を読み、
その本について話し合うことです。
「うちどく」で家族のきずなを深めましょう！



●うちどくをはじめると、まずは絵本がおすすめ！●

絵本は短い時間で読める上に、文章や絵、読む年齢によっても
様々な感想を持てるので、幅広い年代と一緒に読む「うちどくの本」として最適です。



●毎月第3日曜日は「うちどくの日」●

毎月第3日曜日は「うちどくの日」です。週末(金曜日・土曜日)も含めて「うちどく」に取り組み、家族のコミュニケーションを深めるとともに、読書習慣を身に付けていきましょう。

大洲市立図書館(東若宮)うちどくコーナーでは、毎月各年齢層1冊ずつ、図書館司書がうちどくにおすすめの絵本を紹介しています。



1月
ちび竜
工藤 直子/文
あべ 弘士/絵
童心社
2019年 ¥1700

小さな粒から生まれた「ちび竜」。あらゆる自然界のものと出会い、様々なことを学びながら成長し、神通力も身に付けていく。見えないほど小さかった竜は、今や立派な「でか竜」となり、光る青い地球を抱えている。観音開きのページいっぱいに描かれた竜の姿は壮大！無限の可能性を秘めている「ちび竜」はきっと誰の心の中にもいる！



12月
シカの童女
岡野 薫子/さく
赤羽 未吉/え
復刊ドットコム
2018年 ¥1850

昔々、山の仙人が拾い育てた赤ん坊は、きれいな大きな目の女の子になり、若殿様に見初められます。彼女を見ると優しい気持ちになって、趣味の狩りのことを忘れるほどだった若殿様ですが、大殿様の命令でシカ狩りに出かけることになり…。切なく不思議な物語や墨絵の挿画が幽玄の美に誘います。あかね書房1973年刊の改訂版。



2月
空をつくる
村尾 亘/作・絵
小さい書房
2017年 ¥1600

動物たちが住む自然あふれるまちは、だんだん空が見えなくなっていました。みんなが所狭しと高く建物を建てていったからです。困った動物たちは、絵描きのサルにこう頼みました。「空の絵を描いてほしい」と。際限なく続く欲、その欲を満たすための知恵、そして弊害。大切なことを置き去りに、欲を優先する先には何があるのでしょうか。



現在購入できる版の出版年を掲載しています。
価格は2024年2月現在の本体価格です。
掲載については出版社の許諾を得ています。
無断で転載することを禁じます。

2024年3月発行
大洲市立図書館





4月
ブルドッグたんていときえたほし
谷口 智則／作・絵
文溪堂
2018年 ¥1500

最近、ゆっくりと星空を見上げていますか？この絵本は、星が行方不明になるおはなしです。「ほしをさがしてください」と依頼を受けたブルドッグ探偵が聞き込みをしながら進むと、きらきらと輝く島を見つけて…。空に星がなくなったら、希望がなくなったら…どうなってしまおうでしょう。あなたは星にどんなお願いごをしますか。



5月
すきなひと
桜庭 一樹／作
嶽 まいこ／絵
瀧井 朝世／編
岩崎書店
2019年 ¥1500

すきなひとを追いかけているという「もうひとりのわたし」とすれちがった「わたし」。「すきなひとなんていないのに」と不思議に思って追いかけてみると、「すきなひと」はもう去ってしまった後でした。ふたりは「すきなひと」を待つ、共に長い長い時を過ごします。夢のような満ち足りた時間を体験させてくれる、恋の絵本です。



6月
ことばのかたち
おーなり 由子／著
講談社
2013年 ¥1350

「もしも話すことばが目に見えたらどんなかたちをしているだろう」。美しい言葉、人を傷つける言葉、愛の言葉、「だまっている」という言葉…。言葉のむこうにある気持ちを、心に響く詩と色鮮やかな美しいイラストで表現した絵本。声に出した言葉はすぐに消えてしまうからこそ、口にする時は、その言葉が残るかたちを考えてみたい。



7月
まざっちゃんおう！
アリー・チャン／作・絵
小栗 左多里／訳
フレーベル館
2020年 ¥1400

仲良く暮らしていた「あか」、「きいろ」、「あお」の3色は、「あか」が「自分の色が最高」と言い始めたことがきっかけで別々に暮らすことになりました。そんな中、ある「きいろ」と「あお」が出会い仲良くなり…。自分とは違うものに出会った時、そこに新しいものが生まれる。読んだとき、この色たちを何のことだと思いましたか。



8月
わたしのげぼく
上野 そら／作
くまくら 珠美／絵
アルファポリス
2017年 ¥1200

まずタイトルに驚いて手に取ると、表紙にはネコが。ネコ視点のお話で、げぼく＝飼い主の男の子(泣き虫)との生活が描かれています。上から目線の物言いでも、ネコが男の子を大切に想っていることがよく分かります。遊んでケンカして互いに成長し、やがて老いたネコは空へと旅立つ日が来て…。種族を超えた家族愛と、命のお話。



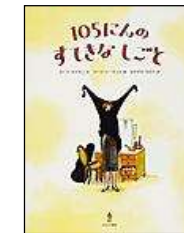
10月
いっしょなら
ルーク・アダム・ホーカー／作
竹田 悦子／訳
ガイアブックス
2021年 ¥2200

まず、絵本の分厚さでひるまないでください。大丈夫、意外と文章は少なめで、読みやすいです。コロナ禍の世界をテーマにした絵本。世界中が恐怖につつまれ、すべての機能が止まってしまったけれど、<いっしょなら>乗りこえられる。黒のみで描かれた繊細なイラストが、淡々と進む物語をよりいっそう美しく彩ります。



9月
キスなんてだいきらい
トミー・ウンゲラー／作
矢川 澄子／訳
好学社
2023年 ¥1700

思春期のパイパーは、過剰に息子をかまう母さんに対し、素直になれずについ反抗してしまいます。子供の成長に伴い、適度な距離を保つのが難しい時期の親子の様子が描かれています。パイパーと母さんの関係はどうなるのでしょうか。自分と比べながら、またそれぞれの立場になって読んでみてはいかがでしょうか。1977年刊の再刊。



11月
105にんのすてきなごと
カーラ・カスキン／文
マーク・シーモント／絵
なががわ ちひろ／訳
あすなろ書房
2012年 ¥1500

ある日の夕方、105人の人たちが、仕事に出かける用意を始めます。それぞれ用意の仕方は違いますが、黒い服を着て、105個のドアを開けて、105本の道歩き、着いたのは同じ音楽ホール。105人が心をひとつに合わせて演奏をします。ひとりひとりの様子を知らずとも、より一層素敵な音楽が聞こえてきそうです。